

へいそく そびえく

■曾於市文化財散歩（八）

深川小の巨木・古木・珍木

深川小学校は、明治五年の創立で、百三十七年の歴史と伝統を持つ学校である。昔から校庭や学校敷地周辺にケヤキ、クスノキ、サクラ、センダン等の巨木・古木が数多く植えられている。



深川のシンボルツリー「櫟（ケヤキ）」

た。旧校舎前のセンダンの巨木（二本）には、フクロウが住みつき、その下でブランコ遊びや憩い、綱引き等をして楽しんだことは、深川小学校を出た古老たちの思い出になっている。幻

の花と言われている「リウゼツラン」が開花して、県内外から多くの見学者があつたことも記憶している。

昭和三十年代になって、新校舎の建築等で伐採された木々もあるが、現在も校内に入ると、巨木・古木・珍木も多く九十種以上の木々がある。平成二十年十月十日シンボルツリーに設定された櫟（ケヤキ）は、幹周りが五メートル二十センチもあり、旧末吉町内のケヤキでは最大の古木である。末吉町深川原口の安田家の話によると、祖先安田森之助が、深川小学校教員として採用された就職記念樹として植えたものであると言われている。

その他、深川小が自慢にしている大木たちには、先ず珍木として、シナサワグルミ、コウヤマキ、リキダマツ、コウヨウザン等がある。この他ハルニレ、センダン、ニッケイ、チシヤノキ、ムクロジ、イチヨウ、サクラ、アスナロ、イヌマキ、ヒノキ、ココスヤシ、タイザンボク、クヌギ、モミ、ヒマラヤスギ等がある。

更に、野鳥の森周辺には七十

種以上の木々がある。一箇所にこれだけ多くの種類の木々があるのは珍しい。学校では、これらの生きた素材を子供たちの学習や地域のため活用することを計画し、鹿児島県の「森林体験活動支援事業」を活用し、九十種に木の特性を記入した樹名板を取り付けた。子供たちの学習に効果が大きいと期待されている。

私は、深川小の巨木・古木・珍木は、曾於市民の大切な文化的財産であると思います。曾於市内には深川小以外にもあちこち貴重な巨木・古木・珍木があると思います。今後、市民の文化的遺産として大切にしていきたいものです。

参考文献 『深川小実践記録』

曾於市文化財保護審議会委員

春山 昭平

